

－ 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。－

「使用上の注意」改訂のご案内

2024年3月

K アスパルテート製剤

L-アスパラギン酸カリウム注射液

アスパラギン酸カリウム注10mEqキット「テルモ」

Potassium L-Aspartate Injection 10mEq Kit

製造販売元：テルモ株式会社

平素より格別のお引立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、弊社医療用医薬品『アスパラギン酸カリウム注 10mEq キット「テルモ」』の電子添文を改訂致しましたので、ご案内申し上げます。

<改訂内容>(_____ : 改訂箇所)

改訂後	改訂前												
<p>2.禁忌（次の患者には投与しないこと） （略） 2.6 エブレレノン（高血圧症）、エサキセレノンを投与中の患者 [10.1 参照]</p>	<p>2.禁忌（次の患者には投与しないこと） （略） 2.6 エブレレノンを投与中の患者 [10.1 参照]</p>												
<p>10. 相互作用 10.1 併用禁忌（併用しないこと）</p> <table><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>エブレレノン（高血圧症） セララ エサキセレノン ミネプロ [2.6 参照]</td><td>血清カリウム値が上昇するおそれがある。</td><td>併用によりカリウム貯留作用が増強するおそれがある。</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	エブレレノン（高血圧症） セララ エサキセレノン ミネプロ [2.6 参照]	血清カリウム値が上昇するおそれがある。	併用によりカリウム貯留作用が増強するおそれがある。	<p>10. 相互作用 10.1 併用禁忌（併用しないこと）</p> <table><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>エブレレノン セララ [2.6 参照]</td><td>血清カリウム値が上昇するおそれがある。</td><td>併用によりカリウム貯留作用が増強するおそれがある。</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	エブレレノン セララ [2.6 参照]	血清カリウム値が上昇するおそれがある。	併用によりカリウム貯留作用が増強するおそれがある。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
エブレレノン（高血圧症） セララ エサキセレノン ミネプロ [2.6 参照]	血清カリウム値が上昇するおそれがある。	併用によりカリウム貯留作用が増強するおそれがある。											
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
エブレレノン セララ [2.6 参照]	血清カリウム値が上昇するおそれがある。	併用によりカリウム貯留作用が増強するおそれがある。											

裏面もご覧ください

改訂後			改訂前		
10.2 併用注意（併用に注意すること）			10.2 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エプレレノン（慢性心不全） フィネレノン	血清カリウム値が上昇する可能性がある ので、血清カリウム値を定期的に観察するなど十分に注意すること。	カリウム貯留作用が増強するおそれがある。	(新設)		
カリウム保持性利尿剤 スピロノラクトン、トリアムテレン等 アンジオテンシン変換酵素阻害剤 イミダプリル塩酸塩、カプトプリル、エナラプリルマレイン酸塩等 アンジオテンシンII受容体拮抗剤 ロサルタンカリウム、カンデサルタンシレキセチル、バルサルタン等 非ステロイド性消炎鎮痛剤 インドメタシン等 β遮断剤 プロプラノロール、アテノロール、ピンドロール等 シクロスポリン ヘパリン ジゴキシン トルバプタン	高カリウム血症があらわれることがある。 定期的に血清カリウム値を観察し、異常が認められた場合には、本剤を減量するなど適切な処置を行う。	カリウム保持性利尿剤はナトリウム、水の排泄を促進し、カリウムの排泄を抑制する。 アンジオテンシン変換酵素阻害剤、アンジオテンシンII受容体拮抗剤は、アルドステロンの分泌を低下させ、カリウムの排泄を減少させるため、併用により高カリウム血症があらわれやすくなると考えられる。 非ステロイド性消炎鎮痛剤、β遮断剤、シクロスポリン、ヘパリン、ジゴキシン、トルバプタンは、血中のカリウムを上昇させる可能性があり、併用により高カリウム血症があらわれやすくなると考えられる。 腎機能障害のある患者。	カリウム保持性利尿剤 スピロノラクトン、トリアムテレン等 アンジオテンシン変換酵素阻害剤 イミダプリル塩酸塩、カプトプリル、エナラプリルマレイン酸塩等 アンジオテンシンII受容体拮抗剤 ロサルタンカリウム、カンデサルタンシレキセチル、バルサルタン等 非ステロイド性消炎鎮痛剤 インドメタシン等 β遮断剤 プロプラノロール、アテノロール、ピンドロール等 シクロスポリン ヘパリン ジゴキシン	高カリウム血症があらわれることがある。 定期的に血清カリウム値を観察し、異常が認められた場合には、本剤を減量するなど適切な処置を行う。	カリウム保持性利尿剤はナトリウム、水の排泄を促進し、カリウムの排泄を抑制する。 アンジオテンシン変換酵素阻害剤、アンジオテンシンII受容体拮抗剤は、アルドステロンの分泌を低下させ、カリウムの排泄を減少させるため、併用により高カリウム血症があらわれやすくなると考えられる。 非ステロイド性消炎鎮痛剤、β遮断剤、シクロスポリン、ヘパリン、ジゴキシンは、血中のカリウムを上昇させる可能性があり、併用により高カリウム血症があらわれやすくなると考えられる。 腎機能障害のある患者。

<改訂理由：自主改訂>

2. 禁忌、10. 相互作用

相互作用相手薬の電子添文との整合を図るため、「禁忌」、「併用禁忌」及び「併用注意」の項を改訂しました。

ご使用に際しましては、電子添文をご参照ください。「添文ナビ」でGS1 バーコードを読み取ってご確認いただけます。



(01)14987350027976

今般の改訂内容につきましては、日本製薬団体連合会発行「DRUG SAFETY UPDATE No. 325 (2024年4月)」に掲載されます。